

研究主題

特別支援学校における障がい種に応じた 教員の専門性の向上と指導の充実に関する研究

－自立活動指導資料（病弱）の作成を通して－


【研究担当者】 長期研修生 坂倉 智子
(所属校 岩手県立盛岡青松支援学校)

【この研究に対する問い合わせ先】

教育支援相談担当
TEL 0198-27-2821 FAX 0198-27-3562
E-mail sien-r@center.iwate-ed.jp

手立て3 「自立活動指導資料（病弱）」を活用した授業実践

ここでは、各授業のねらいを達成するために、具体的な支援をどのように考えたか、自立活動指導資料（病弱）の活用項目と教材とともに紹介します。


 : 具体的な支援に関わる自立活動指導資料（病弱）の活用項目や記載ページを示しています。

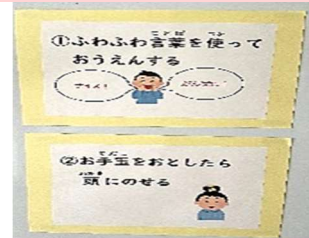
<授業実践1> (対象：小学部2名)

単元名：「ふわふわ言葉の名人になろう」（全4時間）

ねらい：他者との関わりの基礎になる力や状況に応じたコミュニケーションの力を高めること


人間関係の形成につながる支援

 第2章 3人間関係の形成
<自立活動指導資料 p. 59>



児童Aは、友達と仲良く遊びたいという願いがあがるものの、勝ちたいという気持ちから、自分の都合でルールを変えようとするがありました。そのため、人間関係の形成につながる支援として、ルールを理解できるように、「3人間関係の形成」に示されていたロールプレイに加えルールを視覚的に提示しました。


コミュニケーション能力の育成につながる支援

 第2章 Co-MaMe
<自立活動指導資料 pp. 40-41>



児童Aは、状況に応じた言葉遣いが難しいことがありました。そのため、コミュニケーション能力の育成につながる支援として、「Co-MaMe」の中の支援例[不適切な行動になる前に相談する]を参考に、作戦タイムを設定し、ゲームの中で使う言葉について相談できるようにしました。

健康の保持につながる支援

 第3章 ⑥病状の変化に応じた指導上の配慮<自立活動指導資料 p. 74>




児童Bは、自分の体調がよくない、悪くなりつつある、疲れているなどの変調に気がにくく、無理をしてしまうことがあり、結果的に不適切な言動になることがありました。そのため、健康の保持につながる支援として、体調・気持ちカードを使って、授業中にも体調と気持ちを確認できるようにしました。

<授業実践2> (対象：小学部1名)

単元名：「けんこうについて考えよう ～めざせ！4つのミッションクリア～」（全4時間）

ねらい：自己理解と生活管理の力を高めること


自己理解や生活管理能力の育成につながる支援

 第3章 ④体験的な学習について
<自立活動指導資料 p. 77>




児童Cは、肥満がありますが、自分の身体の状態を理解していないことがありました。そのため、自己理解や生活管理能力の育成につながる支援として、「④体験的な学習について」を参考に、児童が適正体重との重量差の米袋を持ちたり背負ったりして、重さを体感する活動を取り入れました。

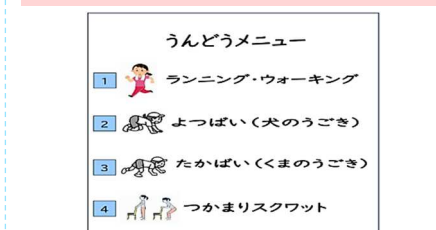
健康の保持につながる支援

 第3章 ⑥病状の変化に応じた指導上の配慮<自立活動指導資料 p. 74>



児童Cは、自分の体調がよくない、悪くなりつつある、疲れているなどの変調に気がにくく、無理をしてしまうことがありました。そのため、病状の変化に応じた支援として、「⑥病状の変化に応じた指導上の配慮」を参考に、運動と運動の合間に体調カードを用いて体調確認を行いました。

 第1章 関係機関との連携
<自立活動指導資料 pp. 26-27>



児童Cは、少し動くと呼吸が苦しくなったり、疲れやすかったりすることがありました。そのため、健康の保持につながる支援として、「関係機関との連携」を参考に、家庭、主治医、放課後等デイサービスと連携し、運動内容を検討しました。

はじめに

近年、病弱特別支援学校においては、対象となる病気等の種類が700疾患以上に拡大してきています。また、小児がんを含む慢性疾患の児童生徒に加え、精神疾患及び心身症のある児童生徒も在籍しています。病気等の状態や背景なども多様になっていることから、一人一人の教育的ニーズに応じた自立活動の指導を一層充実させることが求められています。しかし、担当する教員には、病弱教育の視点を踏まえた実態把握の方法や課題の焦点化、目標や指導内容の設定等に困難を抱えている現状があります。また、これまで培われてきた知識や技能の継承、専門性の維持向上も課題になっています。

このような課題を改善するためには、教員が病弱教育の理論や自立活動に関わる理解を深め、教育的ニーズに応じた個別の指導計画を作成し、それに基づいた授業を積み重ねていく必要があります。

そこで本研究では、「教員の専門性に関する調査を行うこと」「自立活動指導資料を作成すること」「自立活動指導資料を活用した授業実践を行うこと」これら三つの手立てを講じて、教員の専門性の向上と指導の充実を目指すこととしました。



【研究構想図】

手立て1 教員の専門性に関する調査

		専門性の要素
病弱教育における教員の専門性	専門的な知識	・病弱教育の基本 (病弱・身体虚弱とは/対象となる障がいの程度) ・主な疾患の基礎的な知識と配慮事項 ・二次的な障害に対する知識と配慮事項 (発達障がい、被虐待) ・自立活動に関する知識 (自立活動の意義/6区分27項目の内容/個別の指導計画の作成と作成の手順/指導内容及び留意事項) ・病弱の理解と生活規制(生活管理/危機管理) ・進路指導と指導上の配慮事項 ・病弱者の福祉制度 ・医療的ケアに関わる知識
	専門的な技能	・心のケア (病弱、学習面、対人面への不安を理解した指導) ・自立活動の個別の指導計画の作成と活用 (実態把握/課題の抽出/目標の設定/6区分27項目を関連付けた指導内容の選定/実践/評価/指導の改善) ・教科指導(学習空白への配慮/体験学習) ・教材教具の工夫 ・ICTの活用 (遠隔教育/情報活用/間接体験/疑似体験) ・関係機関(医療/福祉/前籍校)との連携 ・保護者との連携

【病弱教育における教員の専門性の要素】

病弱教育における専門的な知識と専門的な技能を、病弱教育の視点から整理したものを「専門性の要素」としました。県内の病弱特別支援学校で病弱教育に携わっている管理職及び教員を対象にした調査の結果を受け、専門性の要素を左の図のように整理しました。

自立活動指導資料（病弱）の
詳細は裏面へ

おわりに

研究内容や自立活動指導資料（病弱）を活用しての授業実践の詳細、自立活動指導資料（病弱）は、当センターWeb ページに掲載しています。

<https://ww1.iwate-ed.jp/04kenkyu/210sien.html>



手立て2 「自立活動指導資料（病弱）」の作成

特別支援学校における障がい種に応じた
教員の専門性の向上と指導の充実に関する研究
—自立活動指導資料（病弱）の作成を通して—

病弱教育における教員の専門性の向上と指導の充実を目指して

自立活動指導資料 （病弱）



令和6年3月
岩手県立総合教育センター
長期研修生
所属 岩手県立盛岡青松支援学校
飯倉 智子

「自立活動指導資料（病弱）」は、三つの章で構成されています。第1章には病弱教育の基本的理解に必要な11項目を、第2章には自立活動の指導に関わる基本的事項や、個別の指導計画の基になるプロセスを考えられるよう、「自立活動目標設定シート」の作成・活用について示しました。第3章には各教科を行う上での配慮事項や、自立活動の指導との関連について示しました。全章を通して病弱教育で使われる用語の説明や、教員の指導にまつわるエピソード等をコラムとして掲載しました。加えて、病弱教育に関連する文献を閲覧、活用できるように、2次元コードも掲載しました。巻末には「自立活動目標設定シート」と「C o - M a M e *アセスメントシート」の様式を添付しました。

※C o - M a M e : 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所(2018)「精神疾患及び心身症のある教育的支援・配慮に関する研究」の研究成果物です。

第1章 病弱教育の基本的理解



- (1) 病弱（身体虚弱）とは
- (2) 病弱特別支援学校の対象となる障がい
- (3) 病弱の理解と生活管理に関すること
- (4) 病弱である児童生徒の気持ちと心のケア
- (5) 病弱教育の児童生徒の教育的ニーズを整理する観点
 - ①病弱の状態の把握
 - ②病弱である児童生徒に対する特別な指導内容
 - ③病弱の児童生徒の教育における合理的配慮を含む必要な支援の内容
- (6) 主な疾患と教育的な配慮
- (7) ICT活用について
- (8) 医療的ケアについて
- (9) 進路指導について
- (10) 関係機関との連携
- (11) 病弱者の福祉制度

- ① 交流及び共同学習ガイドブック
- ② ターミナル期
- ③ トラウマ・インフォームド・ケア
- ④ 精神疾患を有する児童生徒への対応
- ⑤ ゲーム障がい
- ⑥ 主治医との連携
- ⑦ 慢性疾患を有するAくんとご家族
- ⑧ 病弱児童生徒を支えるサポートとその役割
- ⑨ 心とからだの健康相談の活用
- ⑩ 心理的な解放のための活動
- ⑪ 愛着障がい
- ⑫ 環境調整
- ⑬ 食物アレルギー
- ⑭ 自己理解と休憩
- ⑮ 金銭教育について

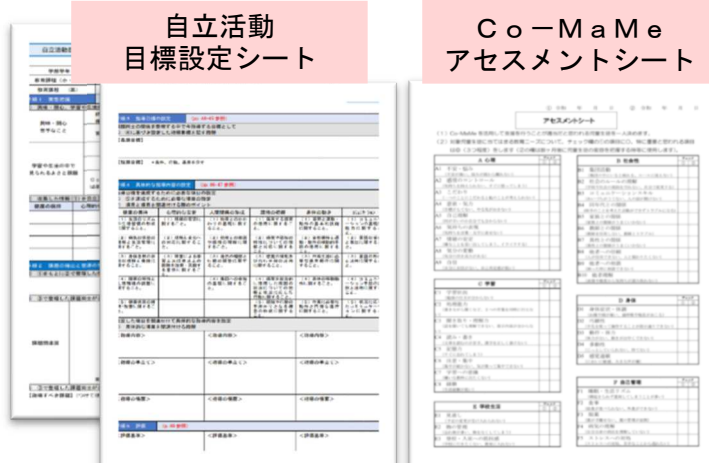
第2章 自立活動の指導

- (1) 指導の基本
- (2) 病弱である児童生徒の自立活動
- (3) 自立活動の指導内容及び留意点

第3章 自立活動と各教科との関連

- (1) 指導上の配慮事項
- (2) 教科指導のための手立てと配慮

様式（巻末）



手立て3 「自立活動指導資料（病弱）」を活用した授業実践

授業実践は、小学部2名を対象に4時間、小学部1名を対象に4時間行いました。授業実践1・2ともに、自立活動指導資料（病弱）に示された目標設定シートを活用し、複数の教員で児童の実態把握、課題の抽出、指導目標、指導内容、評価基準の設定を行いました。ここでは、実態把握、課題の抽出、指導内容の設定について紹介します。
🌸 : 自立活動指導資料との関連（項目や記載ページ）を示しています。

実態把握

第1章 病弱の状態の把握 ＜自立活動指導資料 pp. 3-5＞

第2章 自立活動27項目の説明と病弱である児童生徒の状態と区分・項目の関連例 ＜自立活動指導資料 pp. 32-35＞

実態把握は、「病弱の状態の把握」、「自立活動27項目の説明と病弱である児童生徒の状態と区分・項目の関連例」を参考に幅広く情報収集していきました。「自立活動27項目の説明と病弱である児童生徒の状態と区分・項目の関連例」は指導内容の設定でも活用しました。

課題の抽出

＜授業実践1＞ 児童Aの目標設定シートの一部

＜授業実践2＞ 児童Cの目標設定シートの一部

課題の抽出は、実態把握したものを受けて、課題の背景にある要因や他にも挙げられた課題同士の関連を整理して行いました。
※赤枠：好きなこと・得意なこと・願い 青枠：苦手なこと・課題 緑枠：指導すべき課題を示しています。

指導内容の設定

＜授業実践1＞ 児童Aの目標設定シートの一部

指導目標を達成するために、指導内容を設定します。「具体的な指導内容を設定する際の配慮事項(6点)」＜自立活動指導資料 p. 46＞を考慮したり、「自立活動27項目の説明と病弱である児童生徒の状態と区分項目の関連例」＜自立活動指導資料 pp. 32-35＞の指導内容(例)を参考にしたりしながら、①②の手順で指導内容を設定しました。

手続4 具体的な指導内容の設定